

神奈川県立平塚中等教育学校 演劇部

第63回 神奈川県高等学校演劇発表会上演作品

Standby

ゆーすけ 作（顧問創作）

登場人物

永山	海渚	(演劇部員2年)	舞台監督)
高石	ひなた	(演劇部員2年)	大道具)
姫野	美月	(演劇部員2年)	大道具)
永野	瑠華	(演劇部員2年)	大道具)
一ノ瀬	湊	(演劇部員2年)	小道具)
小林	晴菜	(演劇部員1年)	小道具)
有松	鳴花	(演劇部員2年)	衣装)
平居	ゆうな	(演劇部員2年)	衣装)
藤田	由野	(演劇部員2年)	脚本)
綿谷	菜乃羽	(助っ人1年)	照明)

大会本番の舞台袖。壮大なBGMが鳴る。聞こえるのは舞台上手から。

ミオ
緞帳スタンバイ、ゴー！

幕が上がる。緊張した面持ちの舞台監督と興奮気味の役者が舞台の様子を見守る。

ヒナタ
始まったね。

ミオ
うん。

ヒナタ
大丈夫。きつとうまくいく。

ミオ
みんなこの日に向けて練習してきたからね。

ヒナタ
絶対最後までやりとげようね。

ミオ
そうだね。この作品はちゃんと幕を閉じて終わる。

ヒナタ
うん。なんとしても。

ミオ
うん。

ヒナタ、ミオとは離れたところに、ルカとユウナがいる。

ルカ
見て見て。ハルナが手振ってる。

ユウナ
ほんとだ！

ルカ
やっほー！

ユウナ
頑張ろーねー！

ルカとユウナ、上手袖に向けて手を振る。しばらくしてミツキが近づい

てく
る。

ミツキ　ねえ。なにしてるの？

ルカ　見てください！向こうでハルナが手を振ってるんです！

ユウナ　ほら！あれ、もうやめちゃった。

ミツキ、無言で二人をにらみつける。

ルカ　ねえ、ちょっとやばいかも…。

ユウナ　え？

無言でにらむミツキに気がつき、少しの間。二人は気まずそう。

ミツキ　ちよつときて。

ミツキ、二人を連れて場所を変える。

ミツキ　今、本番中。

二人　…はい。

ミツキ　はしゃがないで。

二人　…はい。

ミツキ　舞台の邪魔になる。

二人　はい…。すみません。

ミツキ 遊びに来たわけじゃないでしょ。

二人 わかってます…。

ミツキ わかってたらこんなことしないよね。

二人 …。

ミオ、怒られてる二人に気づき近づく。

ミオ まあまあまあ、そんな怒らないで。

ミツキ 怒るにきまつてるでしょ。大会だよ？

ミオ 一年生だし、しかたないでしょ？

ミツキ なにかあったら、しかたないではすまないよね。

ミオ まあね。それはそうだけど…。

ミツキ それに私たちにとってこの大会がどんなに大切なものか、ミオだってわかってるでしょ？あまやかしすぎ。

ミオ わかってるよ。けど、私たちも去年そうだったでしょ？

ミツキ だから言ってるの。去年みたいなことになったらどうするの？もう同じ思いをするのは嫌なの。

ミオ 気持ちわかるけど、二人も反省してるみたいだし。舞台に集中しよう！ね？

ミツキ 反省してるならね。

二人 反省してます。

ミオ 二人も初めての大会でテンション上がるのもわかるけど、落ち着いていこうね。

二人 はい。すみません。

ミツキ
やらかしたらゆるさないから。

ミツキ、二人から離れる。

二人
はい……。すみませんでした。

ミオ
ほら、落ち込んでる暇なんてないよ。集中集中！

ミオ、舞台監督の定位置にもどる。少しの間。

ユウナ
ねえねえ、なんかミツキ先輩。ピリピリしすぎじゃない？

ルカ
ねっ。目がつりあがってたよ。

ユウナ
マジ怖すぎ。

ルカ
楽屋でも怖すぎて話しかけられなかったんだけど。

ユウナ
それな。あんなに怒らなくてもよくない？

ルカ
ねっ、言われなくてもわかってるし。

ユウナ
(ミツキのまねをしながら) わかってたらこんなことしないよね。

ルカ
ちよっと似てんのうける。

ユウナ
似てた？持ちネタにしようかな。

ルカ
まじうける。ご本人登場しちゃう的な？

ユウナ
それはやばすぎ。

ルカ
地獄すぎる。

ユウナ
ってかさ、ちよっと気になったんだけどさ。

ルカ
なに？

ユウナ
去年なにかあったか知ってる？

ルカ さっきミツキ先輩が言ってたやつでしょ？知らない。私も気になった。
ユウナ だよね。気になるよね。

ルカ ねえ。ミツキ先輩に聞いてみる？

ユウナ マジ？私は絶対嫌だよ。ルカが聞いて？

ルカ 無理無理。

ヒナタ、二人に近づく。

ヒナタ 二人とも、どうした？なんかあった？

ルカ ミツキ先輩に怒られちゃいました。

ヒナタ あらら、元氣出して？頑張ろ？

ユウナ お母さん。

ユウナ、ヒナタに抱き着く。

ヒナタ よしよし。

ルカ そうだ、ヒナタ先輩に聞いてみるのはどう？

ユウナ なにを？

ルカ さっきの話。

ユウナ あー。確かに、それはあり。

ヒナタ 何？

ユウナ あのー、一つ聞いてもいいですか？

ヒナタ なになに？

ユウナ 気になることがあってー。

ヒナタ うん。

ユウナ ミツキ先輩ってー、去年何かあったんですか？

ヒナタ あー、その話か…。

ユウナ はい！気になって舞台に集中できそうにもなくて。

ルカ 何か事件でもあったんですか？

ヒナタ いやー、ミツキに何かあったわけではないよ。

ユウナ どういうことですか？

ヒナタ まあ、私たちにとっては忘れられないできごとみたいな？

ルカ うんうん。それでそれで？

ヒナタ ただ、今話すことではないかなあ。

二人 えー、それはないですよ。

ヒナタ さあ、舞台に集中集中。

二人 はーい。

舞台上の別の場所。ミオとヨシノの会話。舞台の様子を見ながら会話する。近くにはミツキがいる。

ヨシノ ミオ、今時間どんな感じ？

ミオ 大丈夫だよ。

ヨシノ よし。

ミオ ハルナ、だいぶ緊張してたみたいだけど、なんとか大丈夫そうだね。

ヨシノ うん。よかった。昨日、緊張しすぎて寝れなかったんだって。

ミオ そうなの？

ヨシノ うん。クマやばすぎて化粧で必死に隠してたよ。

ミオ　だからあんなに準備に時間かかったのか。

ヨシノ　そういうこと。そのあと眠気さますって、エナドリいっきしてた。

ミオ　そうなの！？大丈夫かな。

ヨシノ　いやー、どうだろう。

ミオ　ハルナ、お腹弱いよね。

ヨシノ　最弱クラス。

ミオ　だよね。心配なんだけど。

ヨシノ　大丈夫なことを祈るしかないね。

ミツキ　心配な人でいったらもう一人いるでしょ。

ヨシノ　え？誰？メイカ？

ミオ　メイカは大丈夫でしょ。今日もあんなに楽しそうに演技してるし。

ヨシノ　じゃあ。ミナト？ミナトもいつも通りだったよ？

ミツキ　はあ、違うよ。まあ、ミナトはミナトでいつも心配だけど違う。

ヨシノ　えー、他にいる？音響の助っ人の田中君？

ミオ　田中君は大丈夫だよ。朝ごはんに納豆食べたって言ってたし。

ヨシノ　納豆食べてるなら大丈夫か。

ミツキ　なんで納豆食べてたら平気になるのよ。はあ、助っ人は助っ人でも、もう一人の方よ。

ミオ　もう一人って、ナノハさんのこと？

ミツキ　そう。あの子、見るからにやばそうだったでしょ？

ヨシノ　そう？初めてなんだし、一年生だし。仕方ないんじゃない？

ミツキ　しかたないって……。だからって、大会でしかしたら大問題でしょ。

ヨシノ　それはそうんだけどさ。

ミオ　まあ、私がサポートするから大丈夫。

ミツキ
なんともないことを願うわ。

ナノハ登場。手には台本とQシートなど色々な資料を持っている。

ナノハ
あのー、先輩…。

ミオ
あれ、ナノハさん、なんでここにいるの！

ナノハ
わからないことがあって。

ミオ
どうしたの？

ナノハ
えーと…、ちょっと待ってくださいね。

ナノハ、資料をめくるが落としてしまう。

ナノハ
あっ、すみません！

ナノハとミオ、資料を拾う。

ナノハ
すみません。すみません。

ミオ
大丈夫だよ。落ち着いて。

ナノハ
はい。えーと、あれ、どこだっけな。

ミオ
落ち着いて、落ち着いて。

ナノハ
あっ、あった。ここの、F O って、なんでしたっけ…。

ミオ
あ、それはね。フェードアウトってことだよ。

ナノハ
は、はあ。

ミオ
あっ、えーっと、えーと、あのさ、ぱっ！て明かりが消えるんじゃない

て、じわーって消えていくってこと。

ナノハ　じわーって消えるんですね。

ミオ　そうそう！じわーって。

ナノハ　なんとなくですけど、わかりました。

ミオ　よかったー。

ナノハ　じゃあ、このＣＩは？

ミオ　それはカットインって言って。あの、ぱっ！ってやつ。

ナノハ　なるほど！ぱってやつですね。

ミオ　そうそう！分かりづらく書いてごめんね。

ナノハ　大丈夫です。

ミオ　できそう？

ナノハ　やってみます。

ミツキ　あのさ、ちよっといいかな。フェードアウトもカットインも、説明は事

前にしたよね。

ナノハ　すみません。

ミツキ　あの時もわかりました。できます。って言ってたよね。

ナノハ　すみません。

ミツキ　だから一年生に助っ人を頼むのを反対したのよ。

ヨシノ　ミツキ言い過ぎ。初めてなんだからしかたないでしょ。

ミツキ　しかたない、しかたない、ってさ。

ヨシノ　言いたいことはわかるよ。けど私たちは助っ人できてくれることに感謝

しないといけない立場なんだから。

ナノハさん、ごめんね。わからないことがあったら気にせず聞いて。

ナノハ　はい。ありがとうございます。

ミオ
あと、次からはインカム使って聞いていいからね。インカムの使い方はわかる？

ナノハ
：はい。大丈夫だと思います。

ミツキ
そろそろ場面変わるよ。急いで戻って。

ナノハ
はい。

ナノハ走って退場。ヒナタ、ミツキに近づく。

ヒナタ
ミツキ、もっと優しくしてあげなきゃだめだよ。

ミツキ
今日は大会なんだよ？優しくしてる余裕なんかない。

ミオ
はいはい。それくらいにして。ナノハさんは私がサポートするからさ、大丈夫。ほら、場面変わるよ。

ユウナ
いつてきまーす。

ルカ
よしっ！

ユウナとルカ舞台（実際は上手袖）に向かう。入れ替わりで上舞台上（実際は上手袖）からメイカとハルナ戻ってくる。

メイカ
はー。やっぱり舞台って最高。

ミオ
2人ともいい感じだったよ！

メイカ
ありがとう！今のところはなにも問題なし？

ミオ
問題なし！時間もいつも通り。

メイカ
よし。ハルナ、今日もばっちり！

ハルナ
ありがとうございます。本番前の緊張もどかにふっとんじやいまし

た！

メイカ それはよかった！この後もこの調子で！

ハルナ はい！それにしても大会の会場ってすごいですね！照明がいっぱいあって！照明ってこんなに熱いんだって思いました。

メイカ わかる！思ったよりも熱くてびっくりするよね。けど照明浴びる瞬間って最高じゃない？

ハルナ 最高です！今日は私が主役（キザに）って感じがします！

メイカ だよーね！やっぱ舞台って最高！ただハルナ、あんま調子に乗ると痛い目みるからね？

ハルナ 大丈夫です。主役なんてちょっと言い過ぎちゃいましたけど。

ミオ 大事なことだよ。みんなが私を観てるって思うくらいじゃないとね。はい！今日だけはちょっとだけ調子乗っちゃいます。

ハルナ そうそう。その調子。緊張もだいぶほぐれてきたみたいでよかったよ。ミオ 任せてください！先輩たちは大船に乗った気持ちでいてください！き

ハルナ ようの私はいつもとは一味、いやふた味は違いますよ！この会場にいるお客さんの目をくぎ付けにしちやいます！なんたって…今日の主役は、わたし…なんですから。

メイカ ほーら、またそんなこといってー。知らないよ？

ハルナ …はい。すみません。

メイカ そんなに反省しなくてもいいよ。そんなつもりで言ったんじゃないからさ。ね？

ミオ そうそう。そんなに反省しなくていいよ。元気にいこー！

ハルナ …はい。

メイカ もー、ごめんって。

ハルナ いや、違うんです。

メイカ 違うじゃないやーん。

ハルナ ほんとに違うんです。

ミオ どうしたの？

ハルナ あ、改めてみんなが観てるんだって思ったら、なんか、緊張してきちゃって。

メイカ なんでよ、さっきまであんなに堂々としてたのに。

ハルナ 昨日、緊張して寝れなくて、その緊張が……。うつ……。

ミオ 大丈夫だよ。そんなに緊張しなくても。

ハルナ は、はい。うつ。

メイカ ちょっとどうしたの？

ハルナ ……お腹いたくなってきました。うううつ。

ミオ 大丈夫？

ハルナ 大丈夫じゃないかも。…トイレ。

メイカ え？

ハルナ トイレ行ってきても大丈夫ですか？

メイカ 次の出番はいつだっけ？

ハルナ しばらくこないです…。

メイカ うーん、ギリいけるかも。

ミオ どちらにしろその状態じゃ演技なんか無理だから、急いで行ってきな。行って、きます。

ハルナ

ハルナ、走って退場。

メイカ ハルナ、大丈夫かな。

ミオ なんかも眠気覚ますためにエナドリがぶ飲みしたらしいよ。

メイカ 絶対原因それじゃん。

ミオ ねっ。出番までに戻ってこれるといいけど。

メイカ 戻ってこれなかったどうする？

ミオ もし戻ってこれなかったらその時は…。

メイカ その時は？

ミオ なんとかする。

メイカ なんとかってどうするの！

ミオ とりあえず、作者のヨシノに相談。ヨシノ！

ヨシノ はい！

ミオ ちよっと来て。

ヨシノ どうしたの？

ミオ ハルナがトイレに行っちゃった。

ヨシノ あっ、そうなの？へー。

ヨシノ、その場を離れようとする。

ミオ ちよっとちよっと！

ヨシノ なに？

ミオ ハルナがトイレから戻ってこなかったらどうしようかって相談したくて。

ヨシノ そのレベルなの？またお腹やばい感じ？

ミオ わからない。けど厳しい戦いになってるかもしれない。

ヨシノ あらら。

メイカ 例えば、ハルナの役をそのシーンにいないことにするとかは？

ヨシノ うーん、できればそれはしたくないかな。一応ハルナの登場が次のきっかけになってるし。

メイカ そっか……。したらハルナになんとしてでもでてもらわないとか。

ヨシノ ハルナに戻ってこれそうか聞いてみたら？

ミオ 確かに。トイレまで聞きに行く？

メイカ わたしLINEしてみる！

ミオ ハルナ、スマホ持ってるかな。

メイカ ハルナ、スマホ依存症だからきつと持ってる！

メイカ、LINEをハルナに送る。送る内容を口に出している。

メイカ 送った！

ミオ 返ってくるといいけど。

メイカ 既読ついた！

ミオ はやっ！で、どう？

メイカ 顔をゆがめてるスタンプだけきた。

ヨシノ やばそうだね。

ミオ どうするか。

ヨシノ なんとか一言だけ言ってはけることもできないかな？もしできるなら台詞変更して、時間を稼ぐことはできそうだけど。

ミオ よし、聞いてみて。

メイカ おっけい！（送る内容を口に出しながら打つ）送った！

少しの間。

メイカ　きた！なんとかやってみます。だって！
ヨシノ　おっけい！したらちよっとまってねー。
ミオ　台詞の変更なんてそんなすぐできるの？
ヨシノ　まかせて！なんとかする。

考えるヨシノ、それを見守るメイカとミオ。

メイカ　台詞を変更するのはいいけど出るタイミングはどうやって伝える？
ミオ　ここのトイレって舞台の音がスピーカーから聞こえなかったっけ？
メイカ　あ、そっか！それなら平気だね。
ヨシノ　これならなんとかなるか。
ミオ　できた？

うん。そしたら、メイカ、ハルナにこの台詞に変更って写真送っておい
て。

メイカ　なるほど。確かにこれならなんとかなるかも。（台詞はこれで、出るタ
イミングはトイレのスピーカーで聞いてねっと）
ミオ　ほんとに？なんて台詞にしたの？

ヨシノ　それは楽しみにしてて、作者に任せておいて！
ミオ　なんで秘密なのさ、まあ大丈夫ならいいけど。
ヨシノ　大丈夫。大丈夫。とりあえず次のシーンになるから私たちは行ってくる
ね。

ミオ 行ってらっしゃい！頑張って！

メイカとヨシノ、舞台上に向かう。ミツキ、舞台袖に戻ってくる。少し遅れてミナトも戻ってくる。

ミツキ ミオ、今のところ特に問題なし？

ミオ 問題なし！って言いたいたいところだけど…。

ミツキ なに、なんかあったの？

ミオ ハルナがお腹痛くなっちゃって、トイレ行っちゃった。次の出番に間に合うかわからない…。

ミツキ （ため息）なんで大会の時にかぎって色々起こるのよ。

ミオ ねっ。けど、ヨシノが台詞変更すればなんとかなりそうっていったから、たぶん大丈夫。

ミツキ もう去年みたいなことは勘弁だからね。

ミオ うん。ただミツキにはアドリブで対応してもらわないといけないかもしれない…。

ミツキ はあ。わかったよ。なんとかする。

ミナト ねえねえ。桜井さん、どこに座ってるかわかる？

ミツキ はあ？それ、今関係ある？

ミナト あるある。めっちゃある。俺のモチベーションに関わってくる。

ミツキ ねえ、なんでみんなこうも舞台に集中してない人ばかりなの。

ミナト 集中はしてるよ。ただ、桜井さんがいればもっと集中できるのになあってだけ。

ミツキ 勝手にすれば。

ミツキ、その場を離れる。

ミナト
で、場所わかる？

ミオ
さすがにわからないよ。本番前からずっとここにいるし。

ミナト
そっか。もし場所わかったら教えて？視線送らないといけないから。

ミオ
桜井さんは来てくれるの？

ミナト
もちろん！今朝もLINEで「今日の大会頑張ってね！応援しに行く

よ！」（桜井のまねをして）って送ってくれたからね。

ミオ
そっか、よかったね。

ミナト
うん！桜井さんを見つけれたら、いつもの百倍はいい演技ができると思うんだよね。

ミオ
それはなんとしても桜井さんを見つけないとね。

ミナト
そうそう。モニターで客席みれるでしょ？よろしくね？

ミオ
わかった。わかった。それはそうと小道具は大丈夫？

ミナト
問題なし！ちゃんと確認しました！

ミオ
なら安心だね。

ミナト
でしょ？任せておいてよ！じゃあ、よろしく！桜井さん！どこにいるのー！

ミナト、舞台上に向かう。

ミオ
はあ、大丈夫かな。

ここからミオの回想シーン。エリア明かりに変わる。

ヒナタ

ミオ！いよいよだね！

ミオ

ね！初めての大会だからめっちゃ緊張するー。

ヒナタ、ミツキの様子をうかがう。

ヒナタ

ミツキ？大丈夫？

ミツキ

うん…。大丈夫。ちょっと緊張してるだけ。

ヨシノ

ミツキが緊張するなんてめずらしいね。

メイカ

確かに！いつもは緊張なんて知らないってくらい元気いっぱいだもんね。

ミオ

さすがに緊張するよね。初めての大会だし。

ミツキ

うん。なにかやらかさないかと色々心配になっちゃって。

ヒナタ

大丈夫だよ。いっぱい練習してきたし。

ミツキ

ありがとう。頑張る。

ヨシノ

頑張ろっ！それに比べてミナトは…。

全員がミナトに視線を送る。ミナトは袖の近くで舞台の方を見ながらきよろきよろしている。

メイカ

あれ、なにしてるの？

ヨシノ

探してるんだって。

ヒナタ

なにを？

ヨシノ 運命の人。

ミオ はあ？運命の人って誰？

ヨシノ 誰とかではない。

ミツキ どういうこと？ちよつと何言ってるのかわからないんだけど…。

ヨシノ 私にもよくわからない。

メイカ なにそれ。

ヒナタ とりあえず呼ぶか。ミナト。ちよつと来て。

ミナト なになに？いた？

ヒナタ いた？じゃないよ。

ミナト いたんじゃないのかー。残念。

ミナト、また袖から探そうとする。

ヒナタ ちよつと！

ミナト、袖から舞台の方を見ている、顔は不思議そう。

ヒナタ まだ話は終わってないよ。

ミオ ん？どうした？

ミナト なんかわる。

ミオ え？

ミナト シオリが。

みんな袖から舞台上を見る。それぞれ舞台の様子を気にしながら、心

配する声を発する。ミオ少し離れたところで舞台上を見ている。エリ
ア明かりの外からユウナがミオに話しかける。

ユウナ
ミオ

少しの間

ユウナ
先輩

少しの間

回想終了。照明がもとに戻る。

ユウナ
ミオ先輩。

ミオ
(はっとして) えっ。

ユウナ
ミオ先輩。聞いてます？

ミオ
ごめん、ごめん。ぼーっとしてた。

ユウナ
もーしっかりしてくださいよ。

ミオ
ごめん。どうした？

ユウナ
そろそろミツキ先輩の早着替えのシーンが来るので、補助をお願いした
くて。

ミオ
あー、そっか、そろそろか。ごめんごめん。

ユウナ
先輩、大丈夫ですか？体調不良ですか？

ミオ
大丈夫。気にしないで。

ユウナ
ならいいですけど。

ユウナとミオ、着替え場所に向かう。

ユウナ　そろそろ来ますよ。

ミオ　練習通りに、落ち着いて。

ユウナ　来ましたよ。

ミツキ、早着替えのために袖に戻って来る。到着と同時に着替え始める。

着替えが終わったら、舞台に戻る。

ユウナ　おっけい！ミオ先輩、ありがとうございました。

ミオ　いいえー、それにしても、すごい格好だね。

ユウナ　めっちゃ可愛くないですか？

ミオ　かわいいはかわいいけど。

ユウナ　ですよね！ってか、このシーン、このあとハルナも出るんですけど大丈夫ですかね？

ミオ　あつ。まだトイレから戻ってきてない？

ユウナ　はい。さっきトイレで着替えるってLINEきてたんで、衣装は届けてきました。

ミオ　ありがとう。大丈夫かな…。

ユウナ　あつ、ハルナ！

ハルナ、袖を駆け抜けて舞台上に。一言台詞を言って、走って戻って

いく。

ミオ ……行っちゃったね。

ユウナ 行っちゃいましたね。

ミオ 台詞、あれでよかったのかね。

ユウナ まあ、よかったんじゃないですか？じゃあ私は、次、上手で着替えの補助があるので行ってきます。

ミオ 行ってらっしゃい。

しばらくしてナノハがきよろきよろ（おどおど）しながら、ゆっくりミオに近づく。ミオは舞台を気にしていて気づかない。

ナノハ （小さな声で）あの。

…。

ナノハ （ちょっと大きくして）あの。

…。

ナノハ あの！

ミオ （驚く）

ナノハ あの。聞きたいことがあって。

ミオ （驚きが収まらない様子で）…うん。なにかな？あと、質問はインカムで聞いてくれると助かるな。

ナノハ すみません。インカムで話しかけてみたんですけど、返事がなくて。インカムの使い方が間違ってるかもしれないから。聞きにきたほうが早いかなって思って。

ミオ (インカムをつけていないことに気がつく) あっ、ごめん。インカムつけてなかった。ごめん。

ナノハ あ、なるほど、大丈夫です。

ミオ ごめんね。…で聞きたいことって？

ナノハ えーっと。(何かに気がつき、はっとする) ちょっと待ってください！
ミオ どうした？

ナノハ、隠れる。舞台からミツキが袖に戻ってくる。何かを察しているのかきよろきよろしている。

ミツキ ミオ。なにかあった？

ミオ、目線をナノハに送る。ナノハは全力で×を表している。

ミオ …いや、なんもないよ。

ミツキ ならいいけど。上手に伝えることある？

ミオ 大丈夫！ないよ！

ミツキ わかった。

ミツキ、下手袖から上手袖に舞台裏を使って移動するために袖をつつきる。

ナノハ すみません。ありがとうございました。
ミオ さっき怒られちゃったし、仕方ないよ。

ナノハ もうトラウマです。

ミオ 助っ人で来てくれてるのに、ごめんね。

ナノハ いえ、大丈夫です。話を戻します。このSSっていうのは、難易度の
とですか？

ミオ ん？

ナノハ いや、この照明のQシート？にあるSSってあるじゃないですか。これ
は照明機材の難易度なのかなって思っただとしたら、難しい機材を私
が操作できるかなって心配になっちゃって。

ミオ えーっと、まずSSは難易度のことじゃないから安心して。

ナノハ よかったー。安心しました。

ミオ ならよかった。で、このSSってのは照明の種類のことなの。あの袖の
ところに置いてある照明がSS。

ナノハ そうなんです！照明機材って上にしかないのかと思ってました！

ミオ 面白いでしょ？ほかに色々な種類の照明があるんだよ。

ナノハ へー。ちよつと興味持ち始めたかも。ありがとうございました。照明室
戻ります。

ミオ はーい。よろしくね。

ナノハ、ミツキが来ないか気にする感じ照明室に戻っていく。入れ替
わりでミナトとヨシノがやってくる。

ミナト ねー、桜井さんまだ見つかってないんだけど、ヨシノ見なかった？

ヨシノ 桜井さん？誰？

ミナト 3組の桜井香織さん。知らない？

ヨシノ　ごめん、知らない。

ミナト　そっか。じゃああてにならないや。

ヨシノ　なんかその発言はイラツとくる。

ミナト　ごめんごめん。ただあの天使、いや、エンジェルのことを知らないなんて人生損してるよ。

ヨシノ　今、言い直す必要あった？それに知らなかったって人生は損しないと思う。損する損する！だって同級生にでん、エンジェルがいるんだぜ？

ヨシノ　はいはい、エンジェルって言い方にこだわってるのね。で、そのエンジェルがどうしたって？

ミナト　客席にいるらしいんだけど、まだ見つけれなくてさ。

ヨシノ　（怪訝な顔）…え？なんか怖いんだけど。

ミナト　なんで!？

ヨシノ　え、付き合ってるわけじゃないんでしょ？

ミナト　うん。

ヨシノ　一方的に好きだったことだね？

ミナト　好きってわけではないんだよな。

ヨシノ　はあ？なにそれ。

ミナト　好きっていうのはおこがましいんだよ。神々しすぎて。

ヨシノ　意味わかんない。ってか3組ならヒナタと同じクラスってことでしょ？

ヒナタに聞けばいいじゃん。

確かに。ヨシノ、天才じゃん。

ヨシノ　はいはい。ありがとう。ヒナタ！ちよっときて！

ヒナタ、二人に近づく。

ヒナタ なに？どうした？

ヨシノ ミナトがエンジェルを探してるんだって。

ヒナタ エンジェル？この会場に天使がいるの？

ミナト 天使じゃなくてエンジェル。

ヨシノ それはいいから、ヒナタ、桜井さんって同じクラスでしょ？

ヒナタ 香織ちゃん？エンジェルって香織ちゃんのことか！確かにぴったりな呼び名かも！

ミナト でしょ？さすがにヒナタはわかってる。

ヨシノ 意気投合しないでいいから。本題を早く聞きなさい。

ミナト ああ、そうだった。今日、観に来てくれているみたいなんだけど、どこにいるかしらない？

ヒナタ 知ってるよ！

ミナト ええ！

ヒナタ さっきの場面でたまたま視線の先にいたんだよね。

ミナト さすがすぎる…。で！どこにいたの？どこ？どこ？どこ？

ヒナタ 客席の後ろのほうにいたよ！彼氏と観に来てた！

ヨシノ ん？

ミナト (絶望の顔)

ヨシノ 今、ヒナタ、彼氏って言った？

ヒナタ うん。バスケット部の佐藤くん。

ヨシノ (ゆっくりとミナトを見る)

ミナト もう、でない。

ヨシノ え？

ミナト
もう今日はでない。

ヨシノ
ちよっと何言ってるの!?

ミナト
もういいの。

ヨシノ
いいのじゃないよ!

ミナト、端の方に行き、体育座りをする。

ヨシノ
ちよっと!

ヒナタ
なんか悪いことしちゃったかな…。

ヨシノ
ヒナタまで落ち込まないで! ヒナタのせいでは絶対にならないから。
ヒナタ
うん…。

ヒナタ、ミナトに近づく。

ヒナタ
ごめんね、ミナト、落ち込まないで?

ミナト
…。

ヒナタ
元気だしてね?

ヒナタ、ミナトのそばを離れ、しょんぼりしながら舞台に向かう。

ヨシノ
ミオ! 大変!

ミオ
なに! なんがあった?

ヨシノ
ミナトが!

ミオ
ミナト!? 怪我でもした? (駆け出そうとする)

ヨシノ
ハートブレイク！

ミオ
(駆け出したのをやめる) ん？

ヨシノ
ほんとついさっき失恋して、もうでないって言うてる。

ミオ
でないって？この作品についてこと？

ヨシノ
うん。

ミオ
なにいつてるの、ミナトは。今どこにいるの？

ヨシノ
あそこ(ミナトを指差す)。

ミオ、ミナトに近づく。

ミオ
ミナト。

ミナト
ミオ。ごめん。もうでれない。

ミオ
なにいつてるの。出番はまだあるでしょ。

ミナト
メンタルが。

ミオ
失恋がなによ。もっといい人がいるって。

ミナト
みんなそういうんだよ。いないかもしてないのに。

ミオ、少し離れてヨシノに話す。そこに出番を終えたルカが合流。

ミオ
やばいね。

ヨシノ
でしょ。かなりやばい。

ルカ
ミナト先輩、なにかあったんですか？

ヨシノ
ルカは、気にしなくていいよ。大丈夫だから。

ルカ
気にしなくていいっていわれても。あんな誰でも気になるんですけど。

ミオ　だよね…。けど大丈夫だから、本番に集中して。

ルカ　またそうやって、一年にはなにも教えてくれないんですか？そんなんで集中って言われたって無理なんですけど。

ミオ　そうだよね…。

ヨシノ　ミオ…。ごめん。出番だから行くね。あと…よろしく。

ミオ　あ、うん。行つてらっしゃい。

ヨシノ、舞台に向かう。それと入れ替わりでミツキが戻つて来る。

ミツキ　なにあれ。

ルカ　なんかあったらしいですけど。私はなんも知りません。関係ないです。

ミツキ　なにその言い方。

ルカ　なにつて、ほんとにわたしはなにも知らないんです。つか教えてもらえないんです。わたし出番なんで行きますね。

ミオ　ミナト、…もうでたくないって…。

ミツキ、無言でミナトに近づく。しばらく無言でミナトをにらみつける。

ミツキ　なにしてんの。

ミナト　…。

ミツキ　なんか言いなよ。

ミナト　…。

ミツキ 今、自分がなにしてるのかわかってる？

ミナト ……うん。

ミツキ わかってるならさっさと立ち上がりなよ！わかっていないからそうしてるんでしょ！

ミオ ちょっとミツキ、今本番中だから。

ミツキ そんなにわかってるよ！私に言うんじゃないくてミナトにいったら！ミオはあますぎるの。あまやかしたっていいことなんてなにもない！

ミオ ……

ミツキ そうやってみんな黙る。あんたはいつまでそうやってるつもりなの？本気で出ないつもりでいるの？そんなの私ゆるさないから。

ミナト 俺はもうでてない。

ミツキ どうして。

ミナト ……。桜井さんに彼氏がいたから。

ミツキ はあ？なに言ってるの？

ミナト なにって、そのまんまだよ。

ミツキ 桜井さんに彼氏がいて、なんであんたがでれなくなるのよ。

ミナト ……桜井さんの姿をみたくない。

ミツキ なにつまりこういうこと？桜井さんのことが好きで、今日は桜井さんが観に来てくれるからってテンションあがってて、けどその好きな人に彼氏がいて、失恋しちゃったからでたくないってこと？

ミナト ……うん。

ミツキ 理解できないんだけど。そんなのわたしたちには関係ない。あんたの都合で演劇部を巻き込まないで。迷惑。

ミナト ミツキに理解なんてできないだろうね。

ミツキ　なんか言った？

ミナト　お前に人の気持ちなんかかわらないって言ったの！

ミツキ　なにそれ。

ミナト　いつもそうだよな。自分はまちがっていないかのように振る舞って、

自分以外は全員間違ってるみたいな。

ミツキ　なにを偉そうにいつてるの？今間違ってるのはミナトでしょ？それは誰がみても明らかじゃない。

ミナト　もちろん今の俺の行動が正しいことだなんて一切思っていないよ？けど、心が追いつかないことだって人にはあるんだよ！

ミオ　二人ともやめて。

ミナト　普段からろくにコミュニケーションもとらないし、おまえ、部員が何が好きで何が嫌いなのか全然わからないだろ？そうやってるから後輩からも嫌われるんだよ。みんなそれぞれ色々悩みとか抱えながらやってんの！それくらいわかってくれよ！

ミオ　もうやめて！

場が静まり返る。ちょうど舞台から戻ってきたユウナは戸惑いの表情。

ミオ　いい加減にして！今本番中だよ。袖でもめてる場合じゃないことくらい

わかるよね。

ミツキ　わかってる。

ミツキ、その場を離れ、袖近くで舞台を見守る。

ミオ
ミナトも、うじうじしてないで本番に集中して。落ち込むなら終わって
からにして。
ミナト
わかったよ。

ミオ、舞台監督がいる位置に戻る。しばらく静寂のなか劇がすすむ。
しばらくしてハルナが戻ってくる。まるでゾンビのよう。

ハルナ
すみませんでした。

ハルナ、周りを見渡す。それに気づいたユウナが駆け寄る。

ユウナ
ハルナ。大丈夫？
ハルナ
私はもう大丈夫。心配かけてごめん。
ユウナ
よかった。無理はしちゃだめだよ？
ハルナ
うん。

しばらくの間

ハルナ
なんかあったの？
ユウナ
わたしにもよくわからないんだけど。袖でもめてるのは聞こえた。
ハルナ
もめたの？袖でもめたのが聞こえたって、やばくない？
ユウナ
やばいと思う。
ハルナ
もしかして…。
ユウナ
なにか思い当たるの？

ハルナ 私のせい？うっ、またお腹が…。

ユウナ 大丈夫！大丈夫だから。それだけは絶対にないから。

ハルナ けど、みんな怒ってたでしょ？

ユウナ 怒ってない、怒ってない。みんな心配してただけだよ。

ハルナ そうなの？

ユウナ うん！ミツキ先輩がすこし怒ってただけ！

ハルナ やっぱり…。ううっ。

ユウナ あ！ほら、ミツキ先輩はいつも怒ってるじゃん？いつも通りだよ！
ハルナ うううっ。

ルカとヒナタが順番を終えて戻ってくる。ルカは二人に近づく。

ユウナ ちよっと、ハルナ！大丈夫だから。ハルナの胃腸ファイト！

ルカ もうケンカ終わったの？

ユウナ ルカ！ちようどいいところに！ハルナは悪くないよね？なんにも気に
しなくていいよね？

ルカ なんの話？

ユウナ みんながテンションガン下がりしてる理由！

ルカ あー、ぜんっ…：ぜん関係ない。

ユウナ ほら！大丈夫じゃーん。

ハルナ よかった…。

ユウナ ってか、ルカは何があつたのか知ってるの？

ルカ 詳しくは知らないよ。教えてくれないし。ただミナト先輩が落ち込んで
て、ミツキ先輩がきれてて、ミオ先輩がきよどってた。

ユウナ なにそれ。わけがわからなすぎ。

ルカ でしょ？まじでわからないよね。私たち一年生にはなーんにも教えてくれない。

ユウナ それな。去年のこととかね。

ルカ そうそう。ハルナなんか知ってる？去年のこと。

ハルナ 去年？なんかあったの？

ユウナ だよー。知らないよね。

ルカ 知ってたら。それはそれでだったよ。

ユウナ 確かに。脅し手でも問い詰めてたかも。

ハルナ そんな…。ううっ。

ユウナ 冗談だよ！冗談！

ルカ 気になるよね。去年のこと。ミツキ先輩がピリピリしてるのも去年のことがあるからでしょ。

ユウナ 気になるよね。ハルナも気になるでしょ？

ハルナ ううっ、うん。

ルカ やっぱり聞くしかないよね。

ユウナ このまま知らないってわけにはいかないね。いくか。

ルカ うん。

二人、目くばせをして。ヒナタにじわじわ近づいていく。そばまで来たら二人で取り囲むようにして話しかける。

ユウナ ヒナタせんぱーい。

ルカ　せんばーい。

ヒナタ　なに？どうしたの？

ルカ　やっぱりどうしても気になっちゃってー。

ユウナ　なっちゃってー。

ヒナタ　なにを？

ユウナ　ここではなんでなんで、向こうで話ませんか？

ルカ　話しませんか？

ヒナタ　う、うん。出番までまだあるらしいよ？

二人　やったー！

ユウナ　いきましょ！

二人で強引にヒナタを連れて行く。連れて行く先にはハルナ。少しお腹が痛そう。

ヒナタ　で…話したいことってなに？

ルカ　ミナト先輩ってなにがあっただんですか？さっきめちやくちや落ち込んでましたよね？

ヒナタ　あー、ミナトね。私の口から言うのもな…。

ユウナ　ってことはヒナタ先輩はなにがあっただのか知ってるってことですよ？

ヒナタ　うん。まあ、私が原因でもあるし。

ルカ　どういうことですか？教えてください。

ヒナタ　うーん。プライベートなことでもあるしな…。

ルカ　けど、それが原因で本番にも影響してますよね？私たちにも知る権利は

あると思います。

少しの間

ヒナタ そうだよね。詳しいことは本人から聞いてね？

ユウナ はい！さすがヒナタ先輩！

ヒナタ ミナトが落ち込んでるのはね。失恋しちゃったからなの。

ルカ 失恋！？

ハルナ ルカ！声が大きい！

ルカ ごめんごめん。

ユウナ 失恋ってことはフラれたんですか？えっ、誰かに告ったってことですか？えー！誰に？えっ、待って、今落ち込んでるってことは劇部の誰かに告ったってこと？まさか！ヒナタ先輩！？

ユウナ、落ち着いて。ちゃんと聞こう。

ハルナ そうだね。ごめんごめん。落ち着いて。ヒナタ先輩続きをどうぞ。

ヒナタ うん。ちなみに告白したわけではないよ。

ユウナ えー！どういうことー！

ハルナ ユウナ。

ユウナ すみませーん。

ヒナタ まあ、簡単に言くと、好きな人に彼氏がいたの。

ルカ あー。そっち。

ユウナ えっ、それでなんでこんな地獄みたいな空気になってるんですか？

ヒナタ なんてこうなったのかまでは知らないんだけど、ミナトが劇にでないって言ったところまでは知ってる。

ルカ　そのあとミツキ先輩にぶち切られて、この空気ってことか。
ユウナ　そういうこと？なら納得。

ヒナタ　たぶんそういうこと。

ルカ　あー、すっきり。

ユウナ　ヒナタ先輩ありがとうございます！

ヒナタ　うん。もういいかな？

ルカ　待ってください。もう一つ。

ヒナタ　もう一つ？

ルカ　はい、去年あったこと、教えてください。

ヒナタ　その話か。さっきも言ったけど、それは今話すことじゃないと思うんだ。

ユウナ　隠し事はなしにしましょ。私たちも演劇部です。先輩たちになにかあつ

たのか。知ることとは大事なことだと思います。

ハルナ　…私も。知りたいです。

一年生三人がまっすぐヒナタを見つめる。

ヒナタ　そうだよね。言わないままなわけにはいかないよね。

ルカ　はい。教えてください。

ヒナタ　去年の大会。私たちの作品、ちゃんと終えられてないの。

ユウナ　どういうことですか？

ヒナタ　シオリがね、作品中に倒れちゃったの。

ハルナ　えっ。大丈夫だったんですか？

ヒナタ　大丈夫だよ。倒れちゃった原因はね。過呼吸なの。シオリ、すごく真面

目でやさしくて、練習も誰よりも一生懸命にする子だったんだけどね。

本番のあの日、舞台上で台詞が出てこなくなっちゃたの。いっぱい練習した場面だったんだけどね？すぐ緊張してたんだと思う。いつも通りができないくらい。シオリ、台詞が出てこなくて、どうにかしないとって思えば思うほどでこなくなつて、パニックになっちゃったんだと思うんだ。そのまま過呼吸になつて。舞台上で動けなくなっちゃたの。

ヒナタ、舞台の方を見る。ここから回想シーン。エリア明かりに変わる。

ヒナタ

ミオ！いよいよだね！

ミオ

ね！初めての大会だからめっちゃ緊張するー！

ヒナタ、ミツキの様子をうかがう。

ヒナタ

ミツキ？大丈夫？

ミツキ

うん…。大丈夫。ちょっと緊張してるだけ。

ヨシノ

ミツキが緊張するなんてめずらしいね。

メイカ

確かに！いつもは緊張なんて知らないってくらい元気いっぱいだもんね。

ミオ

さすがに緊張するよね。初めての大会だし。

ミツキ

うん。なにかやらかさないかと色々心配になっちゃって。

ヒナタ

大丈夫だよ。いっぱい練習してきたし。

ミツキ

ありがとう。頑張る。

ヨシノ

頑張ろっ！それに比べてミナトは…。

全員がミナトに視線を送る。ミナトは袖の近くで舞台の方を見ながら
きよろきよろしている。

メイカ あれ、なにしてるの？

ヨシノ 探してるんだって。

ヒナタ なにを？

ヨシノ 運命の人。

ミオ はあ？運命の人って誰？

ヨシノ 誰とかではない。

ミツキ どういうこと？ちよつと何言ってるのかわからないんだけど…。

ヨシノ 私にもよくわからない。

メイカ なにそれ。

ヒナタ とりあえず呼ぶか。ミナト。ちよつと来て。

ミナト なになに？いた？

ヒナタ いた？じゃないよ。

ミナト いたんじゃないのかー。残念。

ミナト、また袖から探そうとする。

ヒナタ ちよつと！

ミナト、袖から舞台の方を見ている、顔は不思議そう。

ヒナタ まだ話は終わってないよ。

ミオ ん？どうした？

ミナト なんかわ。

ミオ え？

ミナト シオリが。

みんなで袖から舞台上を見る。それぞれ舞台の様子を気にする。

ミオ ミツキ、ミツキって、シオリの台詞きっかけて入るよね？

ミツキ うん。でも練習と違う、こんなシーン知らない。

ミオ どういうこと？なんで。

ミツキ わからない。どうしよう。

ミオ どうしようって言われても。

ヒナタ シオリ！

メイカ やばいよ。ミオどうしよう！

ミナト 俺、先生呼んでくる！

ヒナタ 私も！

メイカ ミオ！ねえミオ！どうしよう！

みんながバタバタするなか、ミオとミツキは固まったまま。

回想終了。明かりが元に戻る。

ヒナタ

シオリはそのまま倒れこんじゃって、先生が走ってきて。救急車を呼んで、もちろん舞台はそこで終わり。シオリは、無事だったんだけど、その後すぐ部活やめちゃったの。自分のせいだって思ったんだろうね。誰

もそんなこと思っていないのに。まあ去年あったことはこんな感じかな、どう？思ってた話と違った？

ルカ
い、いや。

ヒナタ
なんでミツキがあんなにピリピリしてるのかが気になったんでしょ？

ユウナ
はい。

ヒナタ
ミツキね、自分のせいだって思ってるの。

ユウナ
なんでですか？ミツキ先輩はなにも悪くなくないですよ？

ヒナタ
そうだよ。去年のことはさ、誰も悪くないの。もちろんミツキのせいじゃないし、シオリのせいでもない。

三人
…。

ヒナタ
ミツキね。アドリブでいいから自分が舞台に出て行って助けてあげることでできたんじゃないかって、シオリを助けてあげられたはずなのに何もできなかったって。あの日からずっと。

ユウナ
そうだったんですね。

ヒナタ
だから、本番ってなるとピリピリしちゃうんだ。

ハルナ
なるほど…。

ヒナタ
けど、それは、ミツキだけじゃないの。

ルカ
え？

ヒナタ
私たち2年はみんなそう。みんなどこかで去年のことを気にしてるの。もちろん私もね。2年みんな思いは一つなの。今回の作品は、絶対に、無事に幕を閉じようって、それを一番の目標にしてるの。1年生に言っ
てなくてごめんね？

ハルナ
いえ、けど言っただけでした。

ヒナタ
そうだよ。ごめんね。2年生で話し合っって、1年生には去年のことを

言わずにのびのびと演技してもらおうってことになったの。去年のこと話したら気にしちゃうでしょ？まあ言っちゃったんだけどね？

ルカ 教えてくれてありがとうございます。色々と知れてよかったです。

ユウナ もう隠し事はなしですよ？それに私たちに頼ったっていいんですからね？

ヒナタ そうだね。頼もしい後輩だよ。

ユウナ ですよね？知ってます。

みんなで笑う。ハルナだけ考え込んでいる様子。

ルカ ハルナ？

ユウナ もしかしてまたお腹痛くなっちゃった？

ヒナタ そうなの？大丈夫？

ハルナ 大丈夫です。お腹痛くなったわけではありません。

ヒナタ ならいいけど、もう出番来そうだから行くね？無理はしないでね？

ハルナ はい。ありがとうございます。

ヒナタ ユウナとルカも出番だよね？

ルカ はい！すぐに行きます。

ヒナタ おっけい！先行ってる。

ヒナタ、舞台に出るために袖に向かう。

ユウナ ほんとに大丈夫？

ハルナ 大丈夫。気にしないで？

ルカ　　そう言ってもな。

ハルナ　ほら！この通り元気！（元気を表すポーズになにか）

ユウナ　ならいいけど。無理はだめだよ？

ルカ　　つらかったらいいなね？

ユウナとルカ舞台に向かう。それと入れ替わりでメイカが袖に戻ってくる。

メイカ　ハルナ！もう大丈夫なの？

ハルナ　大丈夫です。心配かけてすみませんでした。

メイカ　いいの、いいの！気にしないで！なんとかなったから大丈夫！

ハルナ　私、先輩たちに迷惑ばかりかけてますよね。

メイカ　そんなことないよ？

ハルナ　そんなことがあります！…私、卒業します！

メイカ　え？卒業？

ハルナ　私、先輩たちの思いも知らず、自分のことばかり考えてました。しかも、人に見られる緊張でお腹痛くなるし…。迷惑かけてばかり…。だからもう先輩に頼らないように卒業するんです！

誰かから去年の話聞いたんでしょ？

…はい。

もー、言わない約束だったのに。

違うんです！私たちが無理やり聞き出したんです。すみません。

メイカ　謝らないでいいよ。隠してた私たちが悪いんだし。…ただ、こういう話は本番が終わってからにしないさい。

ハルナ はい。本番に集中します！

メイカ よし！この作品の幕が閉じるまで頑張るよ！

ハルナ はい！行ってきます！

メイカ 行ってらっしゃい！

ハルナ、舞台へ向かう。それをメイカが見つめる。少しの間。メイカ
何かを思い出したかのようにミオに近づく

メイカ そういえばさ、時間やばいの？

ミオ え？（時間を確認）そんなことないよ？なんで？

メイカ ミツキがね。何箇所か台詞をカットしててさ。

ミオ 台詞のカット？そんなの聞いてないよ？

メイカ そっか。そしたらミツキの気まぐれ？なのかな。めずらしいね。

メイカ、ミオから離れる。

ミオ、何かに気が付く。

ミオ ヨシノ。

ヨシノ はい。

ミオ ちよつと来て。

ヨシノ どうした？

ミオ ミツキの台詞をカットするって話聞いた？

ヨシノ 台詞のカット？そんなの聞いてないよ？

ミオ ねえ。もしかしたらミツキ台詞飛んでるかもしれない。

ヨシノ え？けど舞台は続いてるよ？（大丈夫じゃない？）

ミオ さっきから変なの。ミツキの台詞が台本と違う。ところどころ台詞もカ
ットしてるって言った。

ヨシノ 今日の気分的にとか…ではないね。

ミオ うん。ミツキ、まじめだからいつも台本通りに台詞いうからね。本番に
限ってそれはない。

ヨシノ まずいよね。最悪の場合、去年と同じことになるかも。

ミオ それは絶対にさせない。なんとかしないと。

ヨシノ 次の場面、ミツキの台詞きっかけて場面転換だね。

ミオ ってことは照明も変わるよね。

ヨシノ うん。

ミオ 私は照明と音響の二人に事情を話すから、ヨシノは乗り切る方法を考え
て。

ヨシノ え！

ミオ よろしく！

ミオ、インカムでナノハと田中君に話しかける。ここからナノハの台詞
は発声しない。会話の内容を記すだけ。

ミオ 田中君、ナノハさん。聞こえる？

ナノハ はい。聞こえてます。

ミオ おっけい。ナノハさん。インカムの使い方ばっちり。

ナノハ よかった。

ミオ 二人にお願いがある。

ナノハ　　なんですか？

ミオ　　今から、台本とは違うことが起きると思うんだけど、臨機応変に対応してほしいの。

ナノハ　　えっ、そんな突然言われても。

ミオ　　突然のお願いで戸惑うと思うけど、何とかやり遂げてほしい。

ナノハ　　なにをしたらいいんですか？

ミオ　　大きく変更するってわけじゃないから安心して。

ナノハ　　はい。

ミオ　　これからアドリブでなにかする。そしたら、ナノハさんはそのタイミングで照明を、田中君は音響を変えてほしいの。

ナノハ　　なにかって、なんですか？

ミオ　　なにかはまだ決めてない。

ナノハ　　ええ！

ミオ　　きっかけがちょっと変更になるだけ。あとはセンス！

ナノハ　　センスって言われても！

ミオ　　大丈夫。ナノハさん、センスあるよ。（小声で）きっと。

ナノハ　　いま、きつとって言いえましたよね？

ミオ　　聞こえちゃった？この危機を乗り越えるには二人の力が必要なの。お願い。

ナノハ　　…わかりました。やってみます。

ミオ　　ありがとう。どう変更するかまでは伝えられるかわからないけど、二人のセンスを信じてる。よろしくね。

ナノハ　　…はい。

ミオ、インカムを外す。

ミオ よし、ヨシノ、どう？

ヨシノ どう？って言われても。場面的に出てもおかしくなさそうなのは、ミナ

トしかない。

ミオ わかった。…ミナト、ちょっと来て。

ミナト、ミオのところに移動。

ミナト ミオ、さっきはごめん。

ミオ それはもういい。それより助けて。

ミナト なに？助けて？

ミオ ミツキを救って。

ミナト は？ちゃんと説明して。

ミオ ミツキ、たぶん台詞飛んでる。

ミナト ミツキが？まって、俺がそれをどうにかするってこと？どうやって？

ミオ アドリブでなんとかして。

ミナト まてまて、自分で何言ってるのかわかってるか？

ミオ 無茶言ってるのはわかってる。けど時間がないの。ミナトしかないの。

ミナト 急にいわれても無理だよ！

ミオ 無理じゃない。ミナトならできる。

ミナト 何を根拠に！

ミオ できるの！エチュードの練習もしたでしょ！うじうじしてないでやるの！

ミナト
むちゃくちゃだよ。

ミオ
かっこいいとこ見せて、桜井さんを佐藤君からうばっちゃいな。
ミナト
はあ？

ミオ
ミナトのファン増えるかもよー？

ヨシノ
ミオ、もう限界かも。ミツキ止まっちゃった。

ミオ
ミナトお願い。去年みたいにはしたくないの。ミナトしかいないの。

ミオ、まっすぐな目でミナトを見つめる。

ミナト
だー。もうわかったよ。やればいいんだろ！やってやるよ！どうなって

もしらないからな！

ミオ
さすが。かっこいいよ。

ミナト、舞台に向かう。舞台から台詞が聞こえる。それと同時に場面
転換用のBGMが流れる。

全員、袖に戻ってくる。少し遅れてミツキも戻ってくる。

ミナト
なんとかなったのか…？

ミオ
完璧。想像以上だったよ。

メイカ
ミナト、ありがとう。助かった。

ヒナタ
ありがとうね。

ミナト
(まんざらでもなさそうに)おう。けどもうこんなこと二度とやらない
からな！

少しの間。

ミツキ
みんな…ごめん！

少しの間。

メイカ
ヒナタ
ほーら、落ち込んでる暇なんかないよ！ラストシーンが残ってる！
ミツキ、先に舞台上で待ってるね。

メイカとヒナタ舞台上に向かう。

ミオ
みんなの言う通りだよ。まだ終わったわけじゃない。今年はなにがあっても幕を閉じるんでしょ？

ミツキ
…なんでみんな怒らないの？

ミオ
はあ、そんなに怒ってほしいの？なら、…ミツキのばか！一人で全部抱

えすぎ！全部一人でやろうとして！もっと私たちを頼りなよ！去年のことずっと引きずって！自分のせいだって思い込んで！あれは誰かのせいではないの！みんなのせいなの！演劇は一人でやってるんじゃない！みんなで支え合ってやっていくものでしょ！みんなで一つの作品を作り上げるの！そんなこともわからないミツキはバカだよー！
はー。スッキリした。
…。

ミオ
ミツキ

少しの間

ミナト

そうやってだまる。お前はいつまでそうやってるつもりなの？…さきに
いってるよー。絶対来いよ。

ミツキ

…わかってる。

ヨシノ

出れなそうだったら急遽代役でもたてる？…うそうそ、冗談だよ。ミツ
キじゃないとダメだからね。

ミナト、ヨシノ舞台に向かう。

ミオ

みんなミツキが悪いなんてぜったってっんぜっん思っないよ。そ
れと時間のことは気にしないで！私を誰だと思ってるの？天下の舞台
監督さまです（偉そうなポーズ）。まき指示いっぱい出すから頼むよ（ま
き指示のジェスチャー）！

ミツキ

…。

ミオ

ほら！しゃきつとする！

ミツキ

ありがとう…みんな。

様子を見守っていた一年生たち微笑みながらうなづく。

ここから音楽だけが流れ、動きだけで演技する。

まき指示をするミオとそれをまねて一生懸命まき指示を出す一年生、
音楽がフェードアウトし、動きだけの演技が終了する。

ミオ

このシーンが終わったら、いよいよラストだね。

ミツキ

うん。

ミオ もう大丈夫そう？

ミツキ もう大丈夫。心配かけてごめんね。

ミオ 大丈夫ならよし！

ミツキ ……さっき舞台上で台詞が出てこなくなった時、去年のことを思い出しちゃった。シオリのこと。あんなに練習したのに、毎日台本で自分の台詞

を確認したのに、全然台詞が思い出せなくて。思い出そうと思えば思うほど、どんどん頭が真っ白になっていくの。きっとシオリも同じだったんだろうなって。ヒナタとハルナが何とかしようとしてくれるのはわかってたんだけど、全然台詞がでてこなくて、最後には何も出てこなくなっちゃった。…怖かった。思わず助けてって叫びたくなるくらい。去年シオリを助けてあげられなかった、私への罰なんだって。

ミオ ミツキのせいじゃないよ。ミツキへの罰なんかない。去年のことは誰かのせいじゃなくて、みんなのせいなの。アクセントはみんなでなんとかするのが演劇でしょ？だからもう自分のせいにしないでいいの。もう一人で抱え込まなくていいよ。ミツキ。

ミツキ ……うん。助けてくれて、ありがとう。

ミオ うん！あっ、ちゃんとミナトにもお礼言うんだよ？ミナトの最高のアド

リブのおかげでもあるんだから！

ミツキ あのアドリブはないんじゃない？

ミオ あー、それミナトに絶対に言っちゃだめだよ？また落ち込んだじゃうから。

ミツキ それは勘弁だね。

二人で笑う。

ミオ さあ、ラストシーン張り切っていくよ（背中を叩いて喝を入れる）！
ミツキ いったった！

ミオ （満面の笑み）最後のシーン、思いっきり楽しんで。ラストはミツキの
最大の見せ場なんだから。

ミツキ うん。行ってくる。

ミオ 幕を閉じるのは任せておいて。私が必ず閉じるから。
ミツキ 任せたよ。

ミオ うん！

ミオ さあ、ユウナ、ルカ、ハルナも準備はできてる？

三人 はい！（グッドサイン）

ミオ 最高の歌声でこの劇を終わらせよう。

「心の瞳」の伴奏が流れる。少ししてミツキが舞台に向かう。舞台上
で歌い始める。下手袖でも、一年生たちが歌う。曲の途中で一年生た
ちは舞台上に移動。一人きりになったミオ。下手袖に舞台から聞こえ
てくる歌声が響く。しばらくしてインカムをつける。

ミオ 緞帳スタンバイ、ゴー。

音楽に合わせて幕が閉じる。